

FEAL - NX仕様書

1 序

1.1 FEAL - NX暗号の概要

FEAL (the Fast Data Encipherment Algorithm, 高速データ暗号アルゴリズム) は, 64ビットブロック暗号アルゴリズムであり, 64ビットの平文を64ビットの暗号文に暗号化し, また, 64ビットの暗号文を64ビットの平文に復号化する.

FEALは3つのオプション, 鍵の長さ, 回転数, 鍵パリティ, を持つ. 鍵の長さは, 64ビットか, 128ビットであり, 回転数(N)は, データランダム化のための内部回転数を指定し, 鍵パリティオプションは, 鍵ブロックにおけるパリティビットを使うか, 使わないかを選択する. ここではFEAL - NX暗号をFEAL暗号の鍵パリティビットなし128ビット鍵N回転限定の版と位置付ける.

1.2 FEAL - NXオプション

FEAL - NXオプションは次のように定義される.

(1) 回転数N

回転数Nは, FEALデータランダム化部の回転数(N)を指定する. Nは, $N \geq 32$, 偶数である.

1.3 定義と記法

1.3.1 定義

- (1) 鍵ブロック：128ビットブロックである。
- (2) 鍵：暗号化/復号化に用いる鍵情報
- (3) 回転数(N)：FEALデータランダム化部の内部回転数
- (4) 拡大鍵：16ビットブロック， K_i ， $i = 0, 1, 2, \dots, (N+7)$ 。拡大鍵は，鍵が，FEAL鍵処理部によりランダム化されて拡大され生成される。

1.3.2 記法

- (1) A, A_r, \dots ：ブロック（長さは、各所で定義される）
- (2) (A, B, \dots) ：この順序の連結（concatenation）
- (3) $A \oplus B$ ：ブロックAとBのビット対応の排他的論理和
- (4) 0_{32} ：32ビット長の零ブロック
- (5) 等号 $=$ ：右辺を左辺に代入する
- (6) ビット位置：ブロックの最左端ビット（MSB）から右方向に1, 2, 3, …と数える。

2 暗号化手続き

2.1 計算ステージ

この暗号化手続きの中で使われる拡大鍵 K_i は、4 節で記載される鍵処理により生成される。同様に、ここで使われる関数 f は、5 節で定義される。計算ステージは次の通りであり、詳細は 2.2 節から 2.4 節により詳細に記載される（図 1 も参照）。

- a) 前処理 (2.2 節)
- b) 反復計算 (2.3 節)
- c) 後処理 (2.4 節)

2.2 前処理

平文ブロック P は、同じ長さ (32 ビット) のブロック (L_0, R_0) に分けられる。即ち、 $(L_0, R_0) = P$ 。

初めに、

$$(L_0, R_0) = (L_0, R_0) \oplus (K_N, K_{N+1}, K_{N+2}, K_{N+3})$$

次に、

$$(L_0, R_0) = (L_0, R_0) \oplus (, L_0)$$

2.3 反復計算

(L_0, R_0) を入力し、次の計算を、 $r = 1 \sim N$ について反復して計算する。

$$R_r = L_{r-1} \oplus f(R_{r-1}, K_{r-1})$$

$$L_r = R_{r-1}$$

最終ラウンドの出力は、 (L_N, R_N) である。

2.4 後処理

反復計算の最終出力 (L_N, R_N) の左右を交換して、 (R_N, L_N) とする。

次に、

$$(R_N, L_N) = (R_N, L_N) \oplus (, R_N)$$

最後に，

$$(R_N, L_N) = (R_N, L_N) \oplus (K_{N+4}, K_{N+5}, K_{N+6}, K_{N+7})$$

暗号文ブロックは (R_N, L_N) で得られる．

3 復号化手続き

3.1 計算ステージ

この復号化手続きの中で使われる拡大鍵 K_i は，4 節で記載される鍵処理により生成される．この手続きで使われる関数 f は，5 節で定義される．計算ステージは次の通りであり（図 1 も参照），詳細は 3.2 節から 3.4 節により詳細に記載される．

- a) 前処理（3.2 節）
- b) 反復計算（3.3 節）
- c) 後処理（3.4 節）

3.2 前処理

暗号文ブロック (R_N, L_N) は，同じ長さ（32 ビット）のブロック， R_N ， L_N に分けられる．

初めに，

$$(R_N, L_N) = (R_N, L_N) \oplus (K_{N+4}, K_{N+5}, K_{N+6}, K_{N+7})$$

次に，

$$(R_N, L_N) = (R_N, L_N) \oplus (, R_N)$$

3.3 反復計算

(R_N, L_N)を入力し, 次の計算を, $r = N \sim 1$ について反復して計算する.

$$L_{r-1} = R_r \oplus f(L_r, K_{r-1})$$

$$R_{r-1} = L_r$$

最終ラウンドの出力は, (R_0, L_0)である.

3.4 後処理

反復計算の最終出力 (R_0, L_0) の左右を交換して, (L_0, R_0) とする.

次に,

$$(L_0, R_0) = (L_0, R_0) \oplus (K_0, L_0)$$

最後に,

$$(L_0, R_0) = (L_0, R_0) \oplus (K_N, K_{N+1}, K_{N+2}, K_{N+3})$$

平文ブロックは (L_0, R_0) として得られる.

4 鍵処理

4.1 FEAL - NXの鍵処理

FEAL - NXの鍵処理を記述する (図2を参照). ここで利用する関数は, 5節で定義する. 鍵処理では, 128ビットの鍵から, 拡大鍵 K_i ($i = 0, 1, 2, 3, \dots, N+7$) を生成する.

4.1.1 左鍵 K_L と右鍵 K_R の定義

入力した128ビットの鍵は、同じ長さの64ビットずつに分ける、 K_L が、64ビットの左鍵であり、 K_R が64ビットの右鍵である。即ち、 (K_L, K_R) が入力した128ビット鍵である。

4.1.2 反復計算

(1) 右鍵 K_R の処理

右鍵 K_R を32ビットずつ2等分し、その左32ビットを K_{R1} 、その右32ビットを K_{R2} とおき (即ち、 $(K_{R1}, K_{R2}) = K_R$)、一時変数 Q_r を定義する。

$$\begin{aligned} Q_r &= K_{R1} \oplus K_{R2} && \text{for } r = 1, 4, 7, \dots, && (r = 3i+1; i = 0, 1, \dots) \\ Q_r &= K_{R1} && \text{for } r = 2, 5, 8, \dots, && (r = 3i+2; i = 0, 1, \dots) \\ Q_r &= K_{R2} && \text{for } r = 3, 6, 9, \dots, && (r = 3i+3; i = 0, 1, \dots) \end{aligned}$$

但し、 $1 \leq r \leq (N/2) + 4$ 、 $(N \equiv 32, N: \text{偶数})$

(2) 左鍵 K_L の処理

左鍵 K_L の左半分を A_0 、右半分 B_0 とする。即ち、 $(A_0, B_0) = K_L$ 。
最初に、 $D_0 = A_0$ とする。続いて、 $r = 1 \sim (N/2) + 4$ について、 K_i ($i = 0 \sim (N/2) + 4$) を定める。

$$\begin{aligned} D_r &= A_{r-1} \\ A_r &= B_{r-1} \\ B_r &= f_K(A_{r-1}, B_{r-1}) \\ &= f_K(A_{r-1}, (B_{r-1} \oplus D_{r-1}) \oplus Q_r) \\ K_{2(r-1)} &= (B_{r0}, B_{r1}) \\ K_{2(r-1)+1} &= (B_{r2}, B_{r3}) \end{aligned}$$

ここで、 A_r, B_r, D_r, Q_r は補助変数である。

但し、 $(B_{r0}, B_{r1}, B_{r2}, B_{r3}) = B_r$ 、 B_{rj} ($j = 0 \sim 3$) は1バイト長ブロック。

鍵処理段数は、 $(N/2) + 4$ で与えられる。 A_r, B_r, D_r は、補助変数である

5 関数

2, 3, 4 節で使われる関数を定義する。

5.1 関数 f (図3参照)

$f(x, y)$ を f_0, f_1, f_2, f_3 を $(x_0, x_1, x_2, x_3), (y_0, y_1)$ と表す。

f (つまり f_0, f_1, f_2, f_3) は、次の順序により計算する。ここで、 x_i ($i = 0 \sim 3$), y_i ($i = 0 \sim 1$) は、1バイト長ブロックである。関数 S_0 と S_1 は5.3節に定義される。

$$\begin{aligned} f_1 &= x_1 \oplus y_0 \\ f_2 &= x_2 \oplus y_1 \\ f_1 &= f_1 \oplus x_0 \\ f_2 &= f_2 \oplus x_3 \\ f_1 &= S_1(f_1, f_2) \\ f_2 &= S_0(f_2, f_1) \\ f_0 &= S_0(x_0, f_1) \\ f_3 &= S_1(x_3, f_2) \end{aligned}$$

例：入力： $x = 00\text{ FF FF }00$, $y = \text{FF FF}$, 出力： $f = 10\ 04\ 10\ 44$

5.2 関数 f_K (図4参照)

$f_K(x, y)$ を $f_{K0}, f_{K1}, f_{K2}, f_{K3}$ を $(x_0, x_1, x_2, x_3), (y_0, y_1, y_2, y_3)$ と表す。ここで、 x_i ($i = 0 \sim 3$), y_i ($i = 0 \sim 1$) は、1バイト長ブロックである。

f_K (つまり $f_{K0}, f_{K1}, f_{K2}, f_{K3}$) は、次の順序により計算する。関数 S_0 と S_1 は5.3節に定義される。

$$\begin{aligned}
f_{K1} &= f_1 \oplus 0 \\
f_{K2} &= f_2 \oplus 3 \\
f_{K1} &= S_1(f_{K1}, (f_{K2} \oplus 0)) \\
f_{K2} &= S_0(f_{K2}, (f_{K1} \oplus 1)) \\
f_{K0} &= S_0(0, (f_{K1} \oplus 2)) \\
f_{K3} &= S_1(3, (f_{K2} \oplus 3))
\end{aligned}$$

例：入力： $f_0 = 00\ 00\ 00\ 00$, $f_1 = 00\ 00\ 00\ 00$, 出力： $f_K = 10\ 04\ 10\ 44$

5.3 関数 S

S_0 と S_1 は以下の様に定義される。

$$\begin{aligned}
S_0(X_1, X_2) &= \text{Rot2}((X_1 + X_2) \bmod 256) \\
S_1(X_1, X_2) &= \text{Rot2}((X_1 + X_2 + 1) \bmod 256)
\end{aligned}$$

X_1, X_2 は、1バイトブロックである。 $\text{Rot2}(T)$ は、1バイトブロック T を、2ビット左循環シフト（左2ビット回転）して得られる1バイトブロックである。

例： $X_1 = 00010011$, $X_2 = 11110010$ のとき、
 $T = (X_1 + X_2 + 1) \bmod 256 = 00000110$
 $S_1(X_1, X_2) = \text{Rot2}(T) = 00011000$

6. 動作例

動作データはビット系列と16進数により示される。

6.1 FEAL-NXのオプション（1.2節参照）

この例では、次のFEALのオプションが選択される。

(1) 回転数 $N = 32$

6.2 入力データ

入力ブロックは、鍵ブロックと平文ブロックである。

鍵ブロックKは：

K = 0000 0001 0010 0011 0100 0101 0110 0111
1000 1001 1010 1011 1100 1101 1110 1111
0000 0001 0010 0011 0100 0101 0110 0111
1000 1001 1010 1011 1100 1101 1110 1111 (ビット系列)

K = 01 23 45 67 89 AB CD EF
01 23 45 67 89 AB CD EF (16進数)

平文Pは：

P = 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000
0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000 (ビット系列)
P = 00 00 00 00 00 00 00 00 (16進数)

6.3 鍵処理 (4節参照)

まず、拡大鍵、 $K_0, K_1, K_2, \dots, K_{39}$ の生成を考える。それぞれは、鍵ブロックKから生成され、16ビットである。

6.3.1 反復計算 (4.1.2節参照)

A_0 を K_L の左半分、 B_0 を K_L の右半分とする。即ち、

$K_L = (A_0, B_0)$ $D_0 =$. 従って、
 $A_0 = 0000 0001 0010 0011 0100 0101 0110 0111$ (ビット系列)
= 01 23 45 67 (16進数)
 $B_0 = 1000 1001 1010 1011 1100 1101 1110 1111$ (ビット系列)
= 89 AB CD EF (16進数)
 $D_0 = 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000 0000$ (ビット系列)
= 00 00 00 00 (16進数)

D_1, A_1, B_1, K_0, K_1 を次のように計算する。

$$\begin{aligned}
D_1 = A_0 &= 0000\ 0001\ 0010\ 0011\ 0100\ 0101\ 0110\ 0111 \\
&\quad (\text{ビット系列}) \\
&= 01\ 23\ 45\ 67 \quad (\text{16進数}) \\
A_1 = B_0 &= 1000\ 1001\ 1010\ 1011\ 1100\ 1101\ 1110\ 1111 \\
&\quad (\text{ビット系列}) \\
&= 89\ AB\ CD\ EF \quad (\text{16進数}) \\
B_1 = f_K(A_0, B_0 \oplus D_0) \\
&= 0111\ 0101\ 0001\ 1001\ 0111\ 0001\ 1111\ 1001 \\
&\quad (\text{ビット系列}) \\
&= 75\ 19\ 71\ F9 \quad (\text{16進数}) \\
K_0 &= 0111\ 0101\ 0001\ 1001 \quad (\text{ビット系列}) \\
&= 75\ 19 \quad (\text{16進数}) \\
K_1 &= 0111\ 0001\ 1111\ 1001 \quad (\text{ビット系列}) \\
&= 71\ F9 \quad (\text{16進数})
\end{aligned}$$

この手続きを続け、拡大鍵 K_i が 16 進数で次のように得られる。

$$\begin{aligned}
K_0 &= 75\ 19 & K_1 &= 71\ F9 & K_2 &= 84\ E9 & K_3 &= 48\ 86 \\
K_4 &= 88\ E5 & K_5 &= 52\ 3B & K_6 &= 4E\ A4 & K_7 &= 7A\ DE \\
K_8 &= FE\ 40 & K_9 &= 5E\ 76 & K_{10} &= 98\ 19 & K_{11} &= EE\ AC \\
K_{12} &= 1B\ D4 & K_{13} &= 24\ 55 & K_{14} &= DC\ A0 & K_{15} &= 65\ 3B \\
K_{16} &= 3E\ 32 & K_{17} &= 46\ 52 & K_{18} &= 1C\ C1 & K_{19} &= 34\ DF \\
K_{20} &= 77\ 8B & K_{21} &= 77\ 1D & K_{22} &= D3\ 24 & K_{23} &= 84\ 10 \\
K_{24} &= 1C\ A8 & K_{25} &= BC\ 64 & K_{26} &= A0\ DB & K_{27} &= BD\ D2 \\
K_{28} &= 1F\ 5F & K_{29} &= 8F\ 1C & K_{30} &= 6B\ 81 & K_{31} &= B5\ 60 \\
K_{32} &= 19\ 6A & K_{33} &= 9A\ B1 & K_{34} &= E0\ 15 & K_{35} &= 81\ 90 \\
K_{36} &= 9F\ 72 & K_{37} &= 66\ 43 & K_{38} &= AD\ 32 & K_{39} &= 68\ 3A
\end{aligned}$$

6.4 暗号化アルゴリズム (2 節参照)

6.4.1 前処理 (2.2 節参照)

$$\begin{aligned}
P &= 0000\ 0000\ 0000\ 0000\ 0000\ 0000\ 0000\ 0000 \\
&\quad 0000\ 0000\ 0000\ 0000\ 0000\ 0000\ 0000\ 0000 \quad (\text{ビット系列}) \\
P &= 00\ 00\ 00\ 00\ 00\ 00\ 00\ 00 \quad (16\text{進数})
\end{aligned}$$

Pは、32ビット長の、 L_0 と R_0 とに分けられる。

$$\begin{aligned}
(L_0, R_0) &= (L_0, R_0) \oplus (K_{32}, K_{33}, K_{34}, K_{35}) \\
&= 0001\ 1001\ 0110\ 1010\ 1001\ 1010\ 1011\ 0001 \\
&\quad 1110\ 0000\ 0001\ 0101\ 1000\ 0001\ 1001\ 0000 \\
&\quad (\text{ビット系列}) \\
&= 19\ 6A\ 9A\ B1\ E0\ 15\ 81\ 90 \quad (16\text{進数})
\end{aligned}$$

次に、

$$\begin{aligned}
(L_0, R_0) &= (L_0, R_0) \oplus (L_0) \\
&= 0001\ 1001\ 0110\ 1010\ 1001\ 1010\ 1011\ 0001 \\
&\quad 1111\ 1001\ 0111\ 1111\ 0001\ 1011\ 0010\ 0001 \\
&\quad (\text{ビット系列}) \\
&= 19\ 6A\ 9A\ B1\ F9\ 7F\ 1B\ 21 \quad (16\text{進数})
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
L_0 &= 0001\ 1001\ 0110\ 1010\ 1001\ 1010\ 1011\ 0001 \quad (\text{ビット系列}) \\
&= 19\ 6A\ 9A\ B1 \quad (16\text{進数})
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
R_0 &= 1111\ 1001\ 0111\ 1111\ 0001\ 1011\ 0010\ 0001 \quad (\text{ビット系列}) \\
&= F9\ 7F\ 1B\ 21 \quad (16\text{進数})
\end{aligned}$$

6.4.2 反復計算(2.3節参照)

6.4.2.1 第1ステージにおける R_0 と L_0 の計算

最初に、 $f(R_0, K_0)$ を計算する。

$$\begin{aligned}
&f(R_0, K_0) \\
&= 0101\ 0101\ 0101\ 1100\ 1111\ 1101\ 0111\ 1100 \quad (\text{ビット系列}) \\
&= 55\ 5C\ FD\ 7C \quad (16\text{進数})
\end{aligned}$$

ここで詳細は、6.4.2.2で記述される。

$$L_0 \oplus f(R_0, K_0) = 4C\ 36\ 67\ CD \quad (16\text{進数})$$

反復計算のステージの出力は，

$$L_1 = R_0 = 1111\ 1001\ 0111\ 1111\ 0001\ 1011\ 0010\ 0001 \\ \text{(ビット系列)}$$

$$= F9\ 7F\ 1B\ 21\ \text{(16進数)}$$

$$R_1 = 0100\ 1100\ 0011\ 0110\ 0110\ 0111\ 1100\ 1101\ \text{(ビット系列)}$$

$$= 4C\ 36\ 67\ CD\ \text{(16進数)}$$

6.4.2.2 第1ステージの計算

次の $f(R_0, K_0)$ の計算において， $f(R_0, K_0)$ は短縮して f とし， f_i とは，次のように定義する．

$$\begin{aligned} R_0 &= (r_0, r_1, r_2, r_3) = R_0 \\ &= 1111\ 1001\ 0111\ 1111\ 0001\ 1011\ 0010\ 0001\ \text{(ビット系列)} \\ &= F9\ 7F\ 1B\ 21\ \text{(16進数)} \\ K_0 &= (k_0, k_1) = K_0 \\ &= 0111\ 0101\ 0001\ 1001\ \text{(ビット系列)} \\ &= 75\ 19\ \text{(16進数)} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} r_0 &= 1111\ 1001 = F9\ \text{(16進数)}, & r_1 &= 0111\ 1111 = 7F\ \text{(16進数)} \\ r_2 &= 0001\ 1011 = 1B\ \text{(16進数)}, & r_3 &= 0010\ 0001 = 21\ \text{(16進数)} \\ k_0 &= 0111\ 0101 = 75\ \text{(16進数)}, & k_1 &= 0001\ 1001 = 19\ \text{(16進数)} \end{aligned}$$

f (つまり f_0, f_1, f_2, f_3) は逐次計算する．

$$f_1 = r_1 \oplus r_0 = 0000\ 1010 = 0A\ \text{(16進数)}$$

$$f_2 = r_2 \oplus r_1 = 0000\ 0010 = 02\ \text{(16進数)}$$

$$f_1 = f_1 \oplus k_0 = 1111\ 0011 = F3\ \text{(16進数)}$$

$$f_2 = f_2 \oplus k_3 = 0010\ 0011 = 23\ \text{(16進数)}$$

$$f_1 = S_1(f_1, f_2) = 0101\ 1100 = 5C\ \text{(16進数)}$$

$$f_2 = S_0(f_2, f_1) = 1111\ 1101 = FD\ \text{(16進数)}$$

$$f_0 = S_0(r_0, f_1) = 0101\ 0101 = 55\ \text{(16進数)}$$

$$f_3 = S_1(r_3, f_2) = 0111\ 1100 = 7C\ \text{(16進数)}$$

6.4.2.3 続く計算

上記の計算を継続すると, L_i と R_i が次のように与えられる(16進数表示、ただし i は10進数表示).

処理ステージ

i	L_i	R_i	K_{i-1}	$f(R_{i-1}, K_{i-1})$
0	19 6A 9A B1	F9 7F 1B 21		
1	F9 7F 1B 21	4C 36 67 CD	75 19	55 5C FD 7C
2	4C 36 67 CD	DE 02 58 65	71 F9	27 7D 43 44
3	DE 02 58 65	06 82 45 EF	84 E9	4A B4 22 22
4	06 82 45 EF	69 E5 14 95	48 86	B7 E7 4C F0
5	69 E5 14 95	3E 27 61 05	88 E5	38 A5 24 EA
6	3E 27 61 05	DA 4B 20 7D	52 3B	B3 AE 34 E8
7	DA 4B 20 7D	3B 40 E0 FA	4E A4	05 67 81 FF
8	3B 40 E0 FA	83 50 5F 94	7A DE	59 1B 7F E9
9	83 50 5F 94	9E A6 25 93	FE 40	A5 E6 C5 69
10	9E A6 25 93	6B CC 2E 80	5E 76	E8 9C 71 14
11	6B CC 2E 80	B7 79 7F FC	98 19	29 DF 5A 6F
12	B7 79 7F FC	88 8D EF 7A	EE AC	E3 41 C1 FA
13	88 8D EF 7A	93 F8 74 E6	1B D4	24 81 0B 1A
14	93 F8 74 E6	37 D1 63 B7	24 55	BF 5C 8C CD
15	37 D1 63 B7	44 46 BC E4	DC A0	D7 BE C8 02
16	44 46 BC E4	FA FE 29 0B	65 3B	CD 2F 4A BC
17	FA FE 29 0B	D8 6B 48 E4	3E 32	9C 2D F4 00
18	D8 6B 48 E4	54 2D 6E BB	46 52	AE D3 47 B0
19	54 2D 6E BB	2C 82 BF 2A	1C C1	F4 E9 F7 CE
20	2C 82 BF 2A	5B BA E9 71	34 DF	0F 97 87 CA
21	5B BA E9 71	38 28 49 8B	77 8B	14 AA F6 A1
22	38 28 49 8B	0E A7 1A 8C	77 1D	55 1D F3 FD

23	0E A7 1A 8C	33 9C D0 13	D3 24 0B B4 99 98
24	33 9C D0 13	C6 58 51 F1	84 10 C8 FF 4B 7D
25	C6 58 51 F1	E0 B2 08 38	1C A8 D3 2E D8 2B
26	E0 B2 08 38	71 55 D4 0B	BC 64 D7 0D 85 FA
27	71 55 D4 0B	BE 94 A0 EA	A0 DB 5E 26 A8 D2
28	BE 94 A0 EA	88 95 B5 3A	BD D2 F9 C0 61 31
29	88 95 B5 3A	E1 DB DC 34	1F 5F 5F 4F 7C DE
30	E1 DB DC 34	A6 3F CF 84	8F 1C 2E AA 7A BE
31	A6 3F CF 84	93 2D DF 16	6B 81 72 F6 03 22
32	93 2D DF 16	03 E9 32 D4	B5 60 A5 D6 FD 50

6 . 4 . 3 後処理 (2 . 4 節参照)

最初に , L_{32} と R_{32} を交換する .

$$\begin{aligned}
 (R_{32}, L_{32}) &= 0000\ 0011\ 1110\ 1001\ 0011\ 0010\ 1101\ 0100 \\
 &\quad 1001\ 0011\ 0010\ 1101\ 1101\ 1111\ 0001\ 0110 \\
 &\quad \text{(ビット系列)} \\
 &= 03\ E9\ 32\ D4\ 93\ 2D\ DF\ 16 \quad \text{(16進数)}
 \end{aligned}$$

次に ,

$$\begin{aligned}
 (R_{32}, L_{32}) &= (R_{32}, L_{32}) \oplus (\quad , R_{32}) \\
 (R_{32}, L_{32}) &= 0000\ 0011\ 1110\ 1001\ 0011\ 0010\ 1101\ 0100 \\
 &\quad 1001\ 0000\ 1100\ 0100\ 1110\ 1101\ 1100\ 0010 \\
 &\quad \text{(ビット系列)} \\
 &= 03\ E9\ 32\ D4\ 90\ C4\ ED\ C2 \quad \text{(16進数)}
 \end{aligned}$$

最後に ,

$$\begin{aligned}
 (R_{32}, L_{32}) &= (R_{32}, L_{32}) \oplus (K_{36}, K_{37}, K_{38}, K_{39}) \\
 &= 1001\ 1100\ 1001\ 1011\ 0101\ 0100\ 1001\ 0111 \\
 &\quad 0011\ 1101\ 1111\ 0110\ 1000\ 0101\ 1111\ 1000
 \end{aligned}$$

(ビット系列)

= 9C 9B 54 97 3D F6 85 F8 (16進数)

暗号文ブロックは (R_{32}, L_{32}) で得られる.

最終結果 (暗号文ブロック) は:

C = 1001 1100 1001 1011 0101 0100 1001 0111
0011 1101 1111 0110 1000 0101 1111 1000

(ビット系列)

= 9C 9B 54 97 3D F6 85 F8 (16進数)

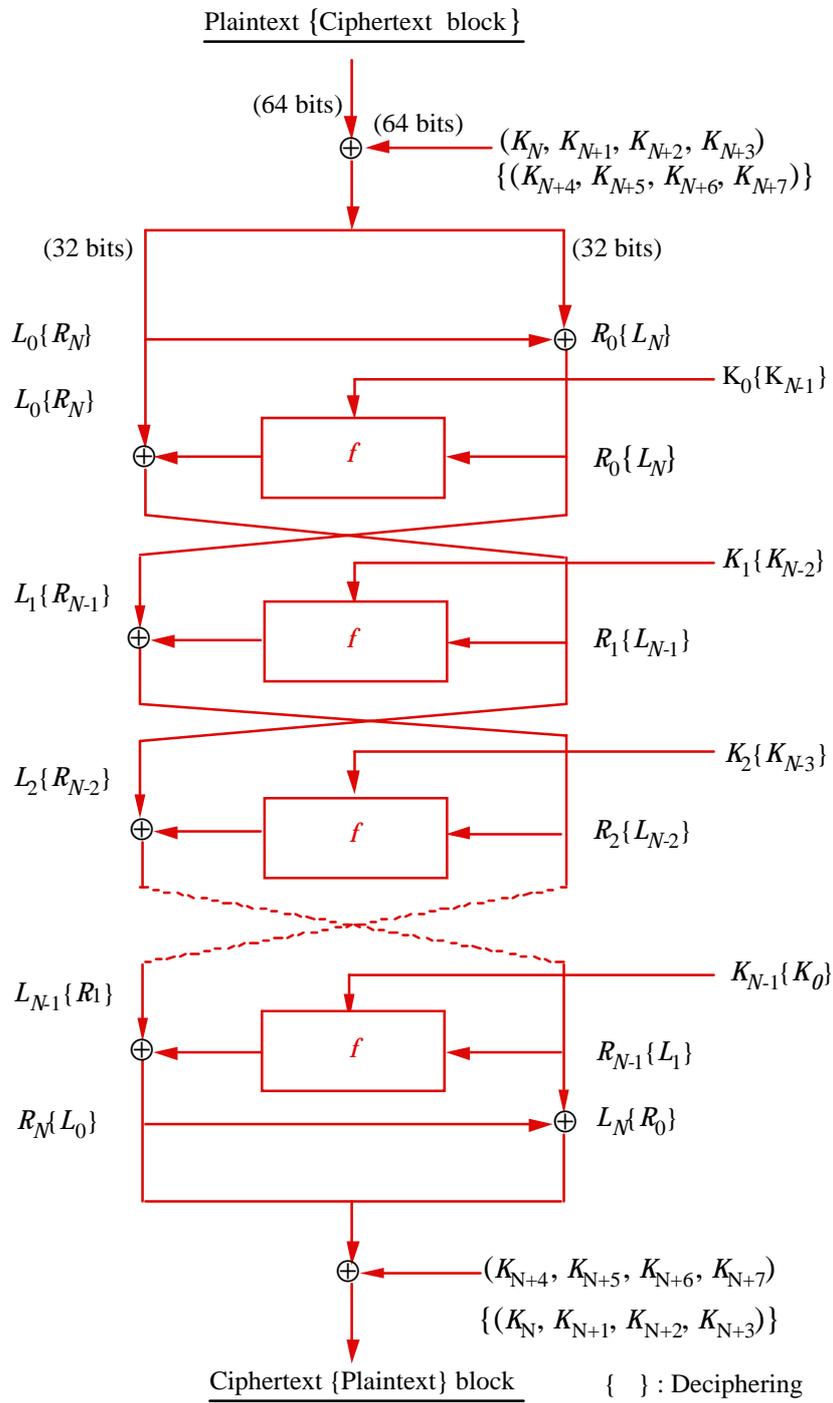


図 1 FEAL-NX のデータランダム(暗号化 / 復号化アルゴリズム)

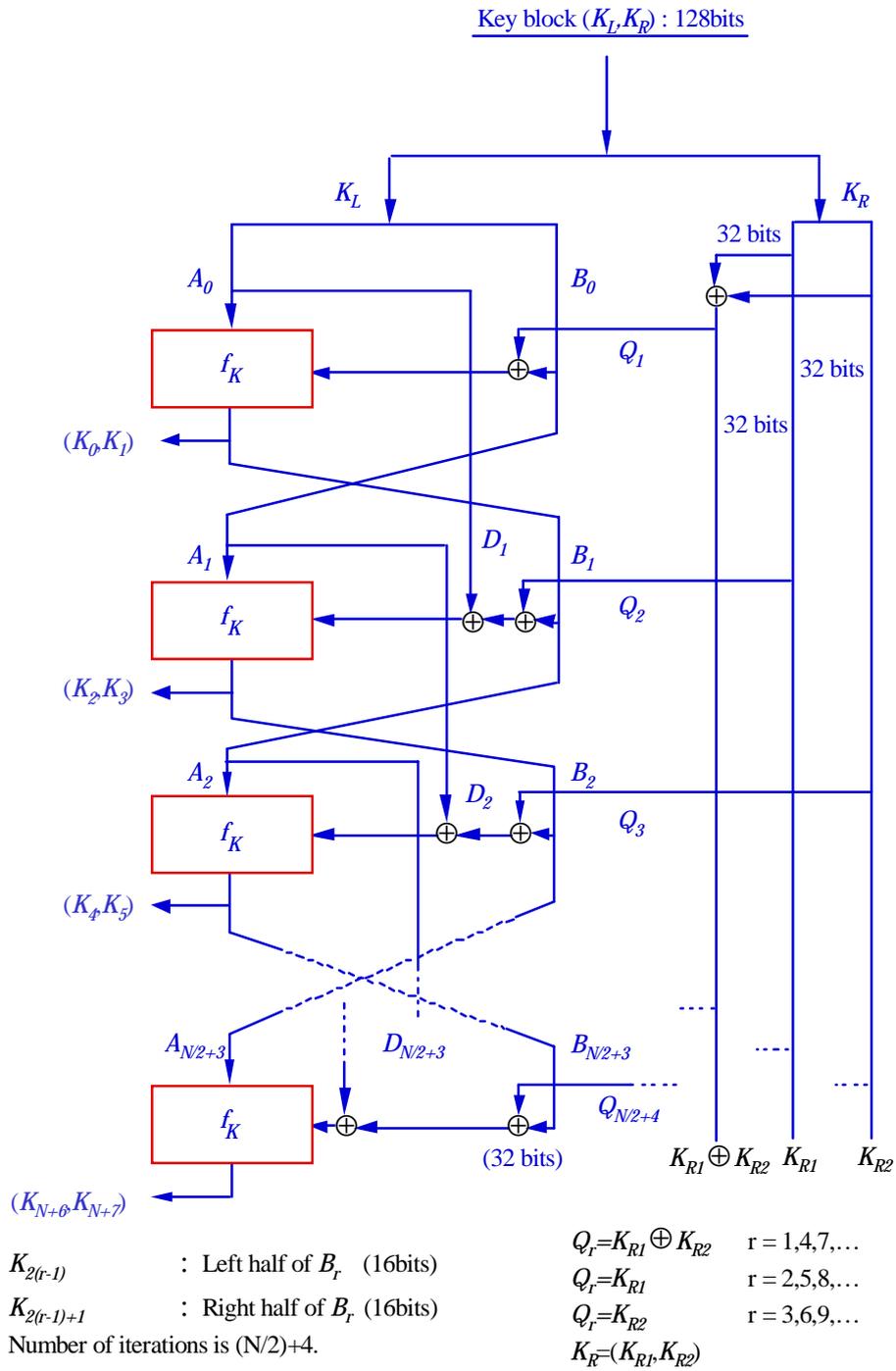
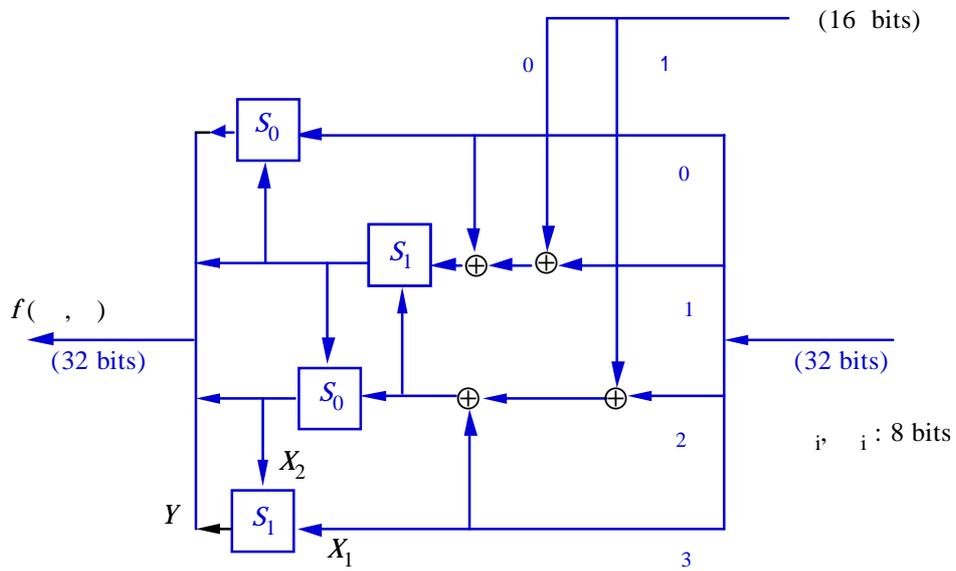


図 2 FEAL-NX の鍵処理

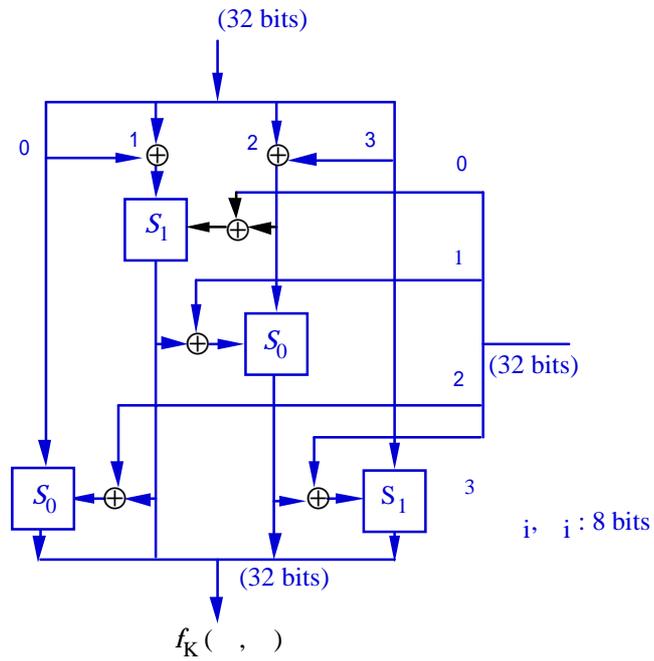


$$Y = S_0(X_1, X_2) = \text{Rot2}((X_1 + X_2) \bmod 256)$$

$$Y = S_1(X_1, X_2) = \text{Rot2}((X_1 + X_2 + 1) \bmod 256)$$

Y : output (8 bits), X_1 / X_2 : inputs (8 bits),
 Rot2 (Y): a 2-bit left rotation on 8-bit data Y

図 3 FEAL-NX の関数 f



Note : S_0/S_1 are the same as S_0/S_1 in f-function.

図 4 FEAL-NX の関数 f_K